



子どもの森づくり通信

(発行:NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2014年11月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



早いもので、今年もあと一月となりました。
東北のどんぐりたちも、すっかり冬支度です。
皆さんのところのどんぐりたちは、いかがですか。

(目次)

1. 子どもの森づくり運動「森の楽園」実施レポート
2. JP子どもの森づくり運動活動レポート
3. 事務局からのお知らせ～今年も、「エコプロダクツ2014」に出展します。～
●どんぐり博士の育苗講座 2014～野外活動の安全編③～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
(順不同) (社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾
(社)日本森林インストラクター協会 NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会
(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



1. 子どもの森づくり運動「森の楽園」活動レポート

2014年11月10日(月)森で遊び、森を体験するプログラム「森の楽園」の活動が行われました。
会場は新宿区の「おとめ山公園」。活動に参加してくれたのは「新宿せいが保育園」の子どもたち26名です。
幸い快晴に恵まれ、充実した活動になりました。以下、インストラクター柳原高文(森林インストラクター)さんのレポートです。

この日の活動目的は「森を楽しむ・多様性を知る」ことです。
進行プログラムは次のように立てました。

1.アイスブレイク・・・動物の眼になろう！2.どんぐりの帽子探し
3.森のたからもの探し「みんな、これ何だ？」「ペットボトルだよ！」「そうですね！じつはここに3つかくしています。それを見つけてみましょう！」子どもたちはこのアイスブレイクに熱中！アイスは直ぐにとけて仲良しになっていきます。



「ではこの写真を見てごらん？いきものが隠れているの分かるかな？」「あついた！キツネだ！」「キツネはいませんよ！もっと小さいきもですよ！」「・・・」「わかったカエルだ！！」
「よく見つけましたね。このように森の生きものは敵から見つからないようにかくれているんですね！では、みなさんの眼が動物の眼になったところで森に行きましょう。どんなたからものが見つかるかな？」「さあ並んで待っていてね！」といって振り返った瞬間、子どもたちの後ろ姿が小さくなって行きます！

なんて行動が早い子どもたちでしょうか・・・そこで作戦修正！
「みなさんはこれから忍者になります！ですから見つからないようにそっと森に入って行きましょうね！」抜き足、差し足、忍び足・・・一人で先に行っては行けませんよ！この作戦がズバリ当たり子どもたちを目的地に誘導することができました。さあこの絵を見てごらん？どんぐりの帽子だよ！よくみるとツブツブがあるね！このツブツブ帽子を探してきて下さい。」と言った瞬間子どもたちは背中を見せています！「あつたよ！ほら！」「ボクも見つけた～」森は子どもたちの喚起にあふれています。こうやって見るとこの森にはたくさんのたからものがあるよ！今度はそれを探しに行きましょう！



数分後、子どもたちの手は森のたからものでいっぱいです。
「ほら木の実だよ！」「こんな大きな葉っぱがあつたよ！」子どもたちの眼はキラキラかがやいています。気がつくとい人の子が葉を木漏れ日にかざしています。「きれい～」それを見た子どもたちが真似します。「本当だ～きれ～い」なんという感性でしょうか。「そうだねたくさんの自然のたからものを見つけたね！」子どもたちが大きくなつきます。このような発見、気づきがあるのが「森の楽園」の活動です。この子どもたちが気づきの質を高め、つぎのステップを踏み出すきっかけになることを願っています。

2. JP子どもの森づくり運動活動レポート

■新潟県「竹野町保育園」植樹活動

- ・日時: 2014年10月16日(金) ・場所: 竹野町保育園 ちびっこ農園 ・インストラクター: 子森ネット河内
- * 詳しいレポートは、ホームページにて掲載中。



準備ができました。



年長さんが20本の苗木を植樹



大きくなあれと願いを込めて



記念撮影

■富山県「やまむろ保育園」苗木を見守る活動

- ・日時: 2014年10月27日(月) ・場所: 呉羽青少年自然の家隣接地 ・インストラクター: NPO法人きんたろう倶楽部、他



木の根元に草を運びます。



絡んだ蔓を取っています。



「きんたろう倶楽部」と協力者のみなさん



お疲れ様でした。

3. 事務局からのお知らせ～今年も、「エコプロダクツ2014」に出展します。～



今年も、12/11(木)～12/13(土)の期間、「東京ビッグサイト」にて開催される、国内最大の環境展「エコプロダクツ2014」～見つけよう、未来を変えるエコの知恵～に出展します。「子どもの森づくり運動」「東北復興グリーンウェイブ」、幼児期の子どもたちの森の保育プログラム「森の楽園」など、今年も盛りだくさんの一年間の活動レポートを掲示します。最終日には、「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソングを歌っている「どんぐりーず」のお二人も参加し、一日3回、会場のあちこちで“♪どんぐりえがお”の歌とダンスをご披露いただきます。(「どんぐりーず」の出演時間と場所については、後日、ホームページにてご案内します。)出展ブース情報については下記の通りです。なお、活動に特別ご協賛いただいております「日本郵政グループ」さんもご出展されます。

○子森ネット

①東5ホール NPO・NGOコーナー 小間番号 N-93

②東4ホール「森林からはじまるエコライフ展」コーナー小間番号 F-32

○日本郵政グループ：東6ホール 小間番号 6-026

入場は無料ですが、ホームページ経由の事前登録が必要です。

エコプロダクツのホームページをご参照願います。⇒<http://eco-pro.com/2014/>

この機会に活動に携わっていただいている皆様とお会いできればと願っております。是非、ご来場下さい

●どんぐり博士の育苗講座2014～新シリーズ！野外活動の安全編③～

安全編の第3回です。初回、2回とハチについて触れました。特段ハチについて沢山語りたいた訳では無いのですが、話の流れとして今回もハチを取り上げ、野外活動での危険への対処について考えたいと思います。どんぐり博士：河内和男(森林インストラクター)



○前回はハチを身近な隣人と記しました。私達の運動は生物多様性にも配慮した活動ですのでご共感下さい。しかし、野外に出た際は、きれい事だけでは済まされません。十分な対策をしても、想定以上の事態が潜んでいるのが自然です。それが起こりやすく、危険も高いのがハチです。そこでハチで想定外の状態になった際の対処について記します。

○ハチの巣や餌場などに近づかないようにしても、活動の場所に1、2匹紛れ込んでしまうことがあります。そのハチがこちらを敵と判断し攻撃して来ないように、ハチが近づいたら、じっとして動かずにハチをやり過ごさなければなりません。移動中のハチは危険を感じなければ攻撃しません。素早い動きはハチに攻撃と思われやすいので禁物で、手で払いのける行動が一番危険ですので、ハチを見かけたらすぐに全体に知らせ、行き過ぎるまでは、子どもたちが動かないで居るようにしなければなりません。事前に練習しておく手もあります。

○無事に行き過ぎれば良いですが、危険な状態、もしくは危険となるかも知れない際は、殺処分が必要です。それは確実な実施が必須で、中途半端に手を出して失敗すると最悪です。確実に殺処分するツールとしてハチ用の殺虫スプレーがあります。一般のスプレーより噴射力が強いので、安全な距離からスプレーできます。さらに、最低2カ所から噴射してハチが回り込まない方向を確保するのが理想です。

○大事な隣人ですが、いざというときは危険生物として、厳格な対処が求められます。でも殺虫剤は強力なツールです。自然の中での安易な使用は控えるべきでしょう。自然への畏敬の念と、子どもたちを守る行動。相反する面もありますが、自然の現場では素早く適切な判断が、ますます大切になっていくと思われれます。